

奈良文化財研究所

奈良文化財研究所は、1952 年、文化財保護委員会に付属する文化財調査研究機関として設立されました。以来、古都奈良の文化財の総合的・学際的な調査・研究や、平城宮跡や藤原宮跡の本格的な発掘調査と研究を推進しています。こうした調査・研究の成果は、発掘調査報告書や研究書として公開しています。

また、全国の発掘調査に携わる自治体専門職員や海外の研究者を対象とした研修・共同研究を行うなど、埋蔵文化財を中心とした文化財調査・研究のナショナルセンターとしての機能も果たしています。ナショナルセンターとしての機能の一環として、文化財情報の積極的な公開に取り組み、上記報告書類の他、データベース群の公開や、データの交換標準に関する調査研究等も推進しています。

なお、今回連携の中心となるのは出土文字資料分野です。国内で出土文字資料の調査・研究に従事する専門チームを抱えているのは奈良文化財研究所だけです。日本の出土文字資料研究の中心拠点といえることができます。

【略歴】

1952 年（昭和 27 年）文化財保護委員会の付属機関として設置

1968 年（昭和 43 年）文化庁発足。その付属機関となる

2001 年（平成 13 年）独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所となる

2007 年（平成 19 年）独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所となる

【奈良文化財研究所公開データベースの概要】

奈良文化財研究所ではナショナルセンター機能の一環として、さまざまな文化財情報のデータベースを公開しています。奈良文化財研究所が管理している文化財に関するデータベースの他、古都奈良の文化財の調査成果のデータベースや、埋蔵文化財全般に関するデータベース、さらには埋蔵文化財活用に関わるデータベースなども構築しています。

[2008 年度実績]

公開データベース数 17 種 総アクセス件数 約 4 6 7 , 5 0 0 件（2008 年度）

【木簡画像データベース・木簡字典の概要】

木簡に書かれた文字画像のデータベースです。木簡釈読の上で、字形に関する知識は非常に重要です。この字形の情報を広く共有し、縦横に利用できるようにすることを目指しています。木簡の文字は不鮮明な場合もありますので、通常モノクロやカラーの可視光撮影写真だけでなく、赤外線撮影写真も含めて複数の写真、および調査員がその文字を読みとった記録（奈文研では記帳ノートと称しています）を用意しています。

木簡の形状や大きさ、出土地など、さまざまな角度からの絞り込み検索を可能にしています。さらに、木簡の文字の残存状況が不完全である場合（折れていたり、割れていたり、消えている）が多い事実を鑑み、単語に束縛されない自由な複数文字検索を可能にしています（今回の共通検索システムでは単文字検索のみとなっています）。また、木簡の専門用語になじみのない方でも感覚的に操作できる様に工夫した検索方法も用意しました。

〔収録データおよびアクセス数〕

文字数	約 24,000 件（2009 年 8 月現在）
文字種	約 1,500 種（2009 年 8 月現在）
文字画像数	約 35,000 件（2009 年 8 月現在）
累計アクセス数	約 50,000 件（2009 年 8 月現在）

東京大学史料編纂所

東京大学史料編纂所は奈良時代～明治維新に至る前近代の日本史史料（古文書・古記録・編纂物など、紙に書かれた史料）を組織的に集積・公開する国内唯一の研究所です。日本に関する史料であれば、国内外を問わず調査の対象とし、主として写真撮影による収集を進めています。

こうした活動を通じて築いた膨大な日本史史料コレクション（複製史料約 3 万件、マイクロフィルム約 490 万コマ）を用い、編纂事業を行っています。1901 年（明治 34 年）の『大日本史料』『大日本古文書』刊行以来、出版事業を継続し、現在その総刊行数は 1000 点を超えるに至りました。また収集史料は、ご所蔵者の理解を得て図書室を通じ広く研究者・市民に対して閲覧公開されています。あわせて近年は電算機やネットワークの発展を受けて、史料情報や編纂情報に関する各種データベースの公開にも取り組んでいます。

【略歴】

1869 年（明治 2 年）和学講談所の修史事業を受けつぎ、史料編輯国史校正局が開設される

1888 年（明治 21 年）帝国大学（現東京大学）に移管され、臨時編年史料編纂所掛となる

1829 年（昭和 4 年）史料編纂所と改称

【史料編纂所公開データベースの概要】

史料編纂所は 1984 年以来、収集した史料に関する目録情報や、史料集編纂に関する各種データを広く公開する目的で、様々なデータベースを構築しています。対象とする時代は、奈良時代から明治維新にわたり、対象とする史料も古文書・古記録・編纂物・絵図・肖像画など多彩です。現在、公開データベースは 30 を数え、年間およそ 140 万件に及ぶアクセスがあります。

【電子くずし字字典データベースの概要】

古文書・古記録に現れるくずし字について、その字形を一覧する目的で開発されたデータベースです。史料を読むためには、くずし字が読めることが必須です。各種の字典が刊行されていますが、収録している字数が限られていたり、出典が不明であったりと、刊行物ゆえの限界があります。そこで史料編纂所では、所蔵する多くの文書や記録をデジタル画像化し、ここから字形を採取・蓄積すると同時に、各種出典情報も付してデータベースを作成しました。単純に文字を入力してその字形を一覧するだけでなく、それを時代順に並べ替えたり、記主の属性（公家か武士かなど）に従って絞りこんだりすることも可能です。またくずした字形が似ている字を相互に参照する機能も付されています。現在収録されている文字・語彙は2万種を超え、文字・語彙の画像は15万件弱に達しています。

〔収録データおよびアクセス数〕

収録文字・語彙種	約 20,000 種（2009 年 3 月現在）
字形画像総数	約 148,000 件（2009 年 3 月現在）
2008 年度アクセス数	31,800 件（所内 8,805 件、所外 22,995 件）